

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月11日
札幌市立北九条小学校

1 本年度の重点目標

共に学び、認め合う学校

- (1) 挨拶と感謝の気持ちがあふれる学校
- (2) いじめを許さず、心身の健康を守る学校
- (3) 清潔で落ち着いた生活を送る学校

2 本年度の経営方針

- (1) 1年間を見通し子どもを育てる教育課程の編成
- (2) 子どもの資質・能力を育てる授業づくり
- (3) 健やかな体を育成する教育の推進
- (4) 自他を大切にできる心を育てる教育の推進
- (5) 個々のニーズに応じた教育の充実
- (6) 組織力を発揮し協働できる学校づくり
- (7) 新たな研修制度の充実と資質向上
- (8) 働き方改革と教育環境整備の推進
- (9) 小中一貫教育・幼保小連携の推進と充実
- (10) 家庭や地域との連携・協働の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力	<生かす力> 思考力・判断力・表現力等の育成	A	子どもたちは学びの中で自ら課題を発見し、意欲的に解決を図る姿が見られた。また、ICT機器の活用が日常の学習に自然と組み込まれてきている。今後もICT活用の充実を図るとともに、調べたことを子ども同士が共有し学びを深められるような協働的な授業づくりに努めていく。	A	A
	<学ぶ意欲> 主体的に学習に取り組む態度の育成	A	子どもたちは、自分の経験と学習内容を結び付けながら、積極的に知識を深めようとしていた。今後は仲間との関わりを大切にし、多様な考えに触れ、学びの面白みを味わう授業を大切にしていくことで、主体的に学習に取り組む態度を育てていく。	A	A
	<学んだ力> 基礎的・基本的な知識及び技能の定着	B	日々の授業の中で、時間の見直しをもって取り組んだり、友達の意見をしっかりと受け止めたりするなど、学習に向かう基本的な姿勢が身に付いてきている。一方で、基礎的な学力については個人差が見られ、一人一人に丁寧に関わる必要がある。今後も子どもの学びの様子を細やかに見取りながら、それぞれの知識と技能を育む授業を大切にしていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用での学びの広がりと同時に、ICT機器に頼らず自身で考える力を培う指導の継続が必須である。 ・今後も「一人一人に丁寧に関わる」ことを大切にしながら、基礎学力の向上に努める必要がある。 				
豊かな心	<授業・行事> 行事や児童会活動、道徳の授業を通じた心の育成	B	子どもたちが多様な場面で交流し、つながりを深める機会を設けることができた。特に、「花の輪活動」では、異なる学年の子どもたちが日常的に関わること	A	A

			で、年上の子は思いやりを持って接し、年下の子は安心感の中で学ぶ姿が見られた。今後も子どもたちの人間関係を豊かにできる関わりを大切にしていける。また、いじめを許さない学校づくりのために、常に様々な行事や道徳などの機会がいじめ防止について考えさせていく。		
	<生活指導> あいさつ指導を通した相手意識の育成	A	日々の関わりの中で、あいさつを大切にする意識が根付き、子どもたちが自ら元気よく声を掛け合う姿が見られるようになってきた。今後も、この習慣をさらに定着できるようにし、周囲の人と積極的に関わりながら、温かく心地よい学校生活を築いていけるよう支えていく。	A	A
	<児童理解> 共感的な姿勢と子ども一人一人に対するきめ細やかな関わり	A	学校全体で協力しながら、子ども一人一人の様子を丁寧に見守る体制を整えてきた。教職員が連携を強め、必要に応じてケース会議や個別の打ち合わせを行いながら、多角的な視点で子どもたちの成長を支えている。今後も子どもの悩みや困りごとに寄り添いながら、安心して学べる環境づくりを進めていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が増えている中ではあるが、他学年との交流や挨拶など日々の積み重ねでの継続が重要であり、これまで同様の指導を続けていく必要がある。 ・「いじめを許さない学校づくり」は大変重要なテーマである。子どもたちの人間関係を良好なものにするためにも、素直に挨拶ができることが大切であり、引き続き指導を継続する必要がある。 			
健やかな体	<運動の日常化> 運動への関心が高まる体育授業や学校行事	A	日常的な体育の学習に加え、休み時間を利用してマット・跳び箱運動に親しむ機会を設けたり、学級で全員遊びを企画したりするよう呼び掛けることで、子どもが意欲的に運動に取り組むことができた。今後も日常的な運動習慣の定着に力を入れていく。	A	A
	<健康教育> 健康の大切さの理解と実践力の育成	A	休み時間に体を動かす楽しさを感じられる機会を増やすとともに、食育や健康教育の機会も随時設けることで、心身ともに健康な状態を子ども自身が作ろうとする気持ちを育てている。これからも、運動を身近なものとして楽しみながら、栄養や睡眠といった視点も意識していくことができるよう、様々な場面を通して働き掛けていく。	A	A
	<体育授業の改善> 体力や技術の向上と伸びの自覚	A	学校全体でスポーツテストを実施し、子どもたちの体力の変化や課題を把握しながら指導を進めている。特に高学年では運動能力の差が広がる傾向があるため、それぞれの成長に合わせた運動習慣を身に付けられるよう、今後も工夫を重ねながら支援していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・学校が工夫して体力づくりに努めている様子が伺える。今後も楽しく体を動かしながら、健康的に過ごせる取組を期待している。 ・子どもたちの生活の実態からも、運動機会の習慣化は大切である。引き続き体力向上のための取組を続けてほしい。 			
信頼され	<学校運営> 子どもの育ちにつながるカリキュラム・マネジメント	A	子どもたちが互いに関わりながら、主体的に学びを深める姿が見られた。また、幼稚園・保育園や中学校とも連携を強め、学びのつながりを広げる取り組みを進め	A	A

る 学 校			てきた。来年度も、このつながりをさらに深め、より実りある学習環境を築いていく。		
	<地域・保護者との連携> 子どもの育ちや安全につながる地域・保護者との活動	A	PTA ボランティアの協力のもと、朝の読み聞かせや読書まつりを実施し、子どもたちが本に親しむ機会を広げてきた。また、交通安全活動をはじめ、地域の方々の支えによって、学校の活動が充実している。これからも地域とのつながりを大切にし、さまざまな立場の方々と協力しながら、開かれた学校づくりを進めていく。	A	A
学校関係者評価委員 による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関係性が深く、地域全体で子どもたちを育成することを大切にしてきている。今後も地域の方々と良好な関係を築き、子どもたちが安心・安全に活動できることを願っている。 ・夏祭りをはじめとした多くの地域行事に、子どもたちが積極的に参加している。その経験が子どもたちや地域の将来につながっていくよう、「さつきた8・1」との交流も含め、ますます発展していくことを期待している。 				

A 十分達成

B おおむね達成

C 達成が不十分